

ノーモア・フクシマ！ 柏崎刈羽原発再稼働ゆるさない！ 3・11長岡集会アピール

2011年3月11日の東京電力福島第一原発の過酷事故から、今日で13年になりました。ふるさとを、くらしを、^{なりわい}生業を奪われた人々の苦しみや深い悲しみは今なお続いています。廃炉作業が難航を極める一方、政府は漁業者との約束を反故にし、ALPS処理汚染水の海洋放出を昨年8月から強行しています。福島原発事故がなかったかのように原発回帰政策を押し進める岸田政権に強く抗議し撤回を求めます。そして、原発ゼロ・再生可能エネルギー推進へとエネルギー政策を大きく転換するよう求めます。

今年元日の能登半島地震では多くの家屋が倒壊し、至る所で道路の寸断や崖崩れが起きました。志賀原発では変圧器の配管が損傷して油が大量に漏れ、電源の一部が使えなくなって核燃料を冷やす燃料プールが一時止まるなどの深刻な影響を受けました。もし原発で事故が起き複合災害になれば、屋内退避することも逃げることもできないという現実を私たちは目の当たりにしました。柏崎刈羽原発に近い佐渡沖には今回の震源断層に連なる活断層の割れ残りがあり、原発のすぐ南にも活断層があるなど、もし断層が連動して動けば巨大な地震になる可能性があると言われています。人間の手で地震を止めることはできませんが、原発を止めて原子力災害を防ぐことはできます。柏崎刈羽原発再稼働をストップさせましょう。

長岡市は、世界最大出力の原発集中立地柏崎刈羽原発から30^{キロメートル}圏内に位置しており、ひとたび過酷事故が起これば、住民のいのちが脅かされ、くらしが立ち行かなくなることは明らかです。原子力規制委員会は、テロ対策不備など不祥事が相次ぎ運転資格能力が厳しく問われる東京電力に出していた柏崎刈羽原発運転禁止命令を、昨年12月27日に解除しました。また、新潟県は県が誇るべき「3つの検証委員会」の徹底検証を保障することなく不十分なまま終了させてしまいました。原発の危険から県民を守る大きな責任を持つ花角知事に求めます。柏崎刈羽原発再稼働を認めず、脱原発に舵を切ってください。そして、原発の危険と隣り合わせの長岡市は、市民のいのちとくらしを守るためにあらゆる手立てを尽くしてください。磯田市長が掲げた「市民の不安が解消されない限り、柏崎刈羽原発の再稼働をすべきではない」という公約を今後も貫かれることを、長岡市民として期待しています。

私たちは今、「ノーモア・フクシマ！ 柏崎刈羽原発再稼働をゆるさない！」という熱い思いを胸にここに集っています。情勢は緊迫しています。市民の皆さんに心から呼びかけます。柏崎刈羽原発再稼働をストップさせるために、国と東電、新潟県、長岡市に対して声をあげ、願いを届けていきましょう！未来を生きる子どもたちに、原発のない安全・安心な社会を手渡すため、ともに力を合わせていきましょう！

2024年3月11日

ノーモア・フクシマ！ 柏崎刈羽原発再稼働ゆるさない！ 3・11長岡集会